

第6回 高輪築堤跡整備基本計画策定委員会

議事要旨

I 開催概要

日時： 2024（令和6）年12月6日（金曜日）10時00分～12時00分
場所： JR東日本 会議室
出席者： 以下の通り

表 出・欠席者一覧（※印はオンライン出席）

委員長	・中井 検裕 氏（東京工業大学 名誉教授）
副委員長	・鈴木 淳 氏（東京大学大学院 人文社会系研究科・文学部 教授）
委員	・内田 まほろ氏（一般財団法人 JR 東日本文化創造財団 MoN Takanawa: The Museum of Narratives 開館準備室 室長） ・小野田 滋 氏（公益財団法人 鉄道総合技術研究所 アドバイザー） ・高妻 洋成 氏（独立行政法人 国立文化財機構 文化財防災センター センター長 奈良文化財研究所 参与） ※古関 潤一 氏（東京大学 名誉教授・ライト工業株式会社 R&D センター テクニカルオフィサー） 【欠】矢ヶ崎 紀子氏（東京女子大学 現代教養学部 教授）
オブザーバー	※文化庁文化財第二課 文化庁文化資源活用課 東京都 教育庁 地域教育支援部 港区教育委員会事務局 教育推進部 港区街づくり支援部 【欠】公益財団法人 東日本鉄道文化財団 鉄道博物館 一般財団法人 JR 東日本文化創造財団 MoN Takanawa: The Museum of Narratives 開館準備室 独立行政法人 都市再生機構 東日本都市再生本部 都心業務部 独立行政法人 都市再生機構 東日本都市再生本部 技術監理部 JR 東日本コンサルタンツ株式会社 品川駅北周辺地区市街地再開発準備組合 【欠】東日本旅客鉄道株式会社 構造技術センター 東日本旅客鉄道株式会社 マーケティング本部 東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部
関係者	※東京都 都市整備局 市街地整備部
事務局	東日本旅客鉄道株式会社 マーケティング本部 東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部
サポート	パシフィックコンサルタンツ株式会社

II 次第

- (1) 開会
- (2) 前回議事録確認
- (3) 議題内容と策定スケジュール
- (4) 第6章 整備基本計画
- (5) 第7章 事業計画
- (6) ワーキンググループ検討状況について

- (7) 区画道路 2 号の計画見直しについて
- (8) 整備基本計画書のとりまとめについて
- (9) その他

III 議事要旨

1 開会

2 前回議事録確認

3 議題内容と策定スケジュール

- 今回は、展示計画及び信号機土台部の他、管理運営・経過観察、第 7 章の事業計画に関して議論いただく。委員会は今回を含め残り 2 回で、整備基本計画書（素案）は 2025 年 2 月 18 日を目指して作成、その後に設ける確認期間で出た修正事項について修正したものを次回、最終の委員会にて提示する予定としている。（事務局）
- 2 月後半には皆さんに色々な確認作業をお願いすることになるので、ご承知おきいただきたい。ご意見等が無いようであれば、整備基本計画書のとりまとめ及び第 7 回委員会に向けては、提案スケジュールのとおりで進めることとする。（委員）

4 第 6 章 整備基本計画

(1) 高輪築堤跡の展示計画について

- 各展示施設における展示コンテンツ・手法（案）の方向性についてご意見・ご提案をいただきたい。（事務局）

【資料中の表記について】

- 前回委員会の議事録において、「復元保存」という用語が適切でないとの指摘があった。最終的な報告書を作成する際には、用語全般について精査してもらいたい。（委員）
- 「品川北街区」は、正確には「駅街区北」ではないか。正確に記載してもらいたい。（委員）

【展示活用計画について】

- 全体的によくまとまっていると思う。計画と実施に至る期間が非常に長いため、都度分析とフィードバックを行い、次の計画に役立てるための設計体制が必要である。（委員）
- ガイダンス施設が色々な場所に点在しているため、それぞれのターゲットに向けた PR をする必要がある。（委員）
- 築堤は 3 年後の公開、信号機土台部はかなり先の話となるので、関心が低下しないような工夫が大事だと思う。切れ目なく情報発信をしていく仕組みが必要ではないか。（オブザーバー）
- 2028 年 3 月まではスケジュールが確定しているが、そこから先は今後の状況にもよると想定される。（委員）

(2) 信号機土台部の移築保存の検討について

【信号機土台部の再現高さについて】

- 信号機の土台が主役なので、信号機がどう見えるのかについては、しっかりシミュレーションしてもらいたい。（委員）

- 現地で残せなかったものを再現したことが分かるように、極端に高くしてもらった方が良い。空間については、解説的なものを重視する立場であるため、誤解を招かないように検討していただきたい。(オブザーバー)
 - ← 案内見学施設とは感じが違うと思われるため、ここに相応しいガイダンスとは何かを含めて検討していきたい。(オブザーバー)
- 信号機土台部のみ移築であり、使い方の自由度があるのが一番の特徴である。築堤公開後の数年後に出来上がるとなると、築堤の解説や築堤そのものを見ることに新しさは無くなるため、いかにまちに来る方たちが築堤周辺を自分が使える場所として付き合ってもらえるかについて考えた方が良い。自由に上に上がれるというのが重要なポイントだと思っている。(委員)
- 復元なので皆さんが活用できるという点では賛成である。ただし、今回再現するところはGLよりも下になるが、築堤が海の上にあったことが大切であり、それを想起させるためにはGLよりも少し上にあった方が、現物でないことが分かりやすく誤解を招かないと考える。両立を目指した案のいずれかが良いのではないか。(委員)
- 移築なので、築堤の規模を示すためにも少し上に出ていた方が良い。(委員)
- 高い方が良いと考えるが、そうすると山側法面が重要だが、当時の姿が分からないため、どう再現するのかが課題になる。緑にするとして芝を張るわけにはいかないのかという点が気になる。(委員)
- 視認性の問題から、海の上に高く立っているようなイメージを継承してもらいたい。(オブザーバー)

【移築ならではの公開・活用について】

- 遺構の移築の観点からすると、どの部分が移築再現されているのかを明確にする必要がある。復元には学術的な調査で得られた情報が反映されていて、多くの人が触れられる機会を設けることが大切である。(委員)
- 線路のバラストを踏み込んで歩くこと自体が非日常的な体験であり、このような体験ができることが重要である。(オブザーバー)
- ガイダンス空間をイベントスペースとして使うとすると、階段との距離が離れていると感じるので工夫が必要だと思う。広場をイベントスペースとして活用することに法的な問題が無いのであれば、そういった使い方も考慮したスペースになると良い。(委員)

【水域部構造の見せ方について】

- 水を入れた方が良いと考える。築堤のあった場所が海だったことを理解してもらうとともに、水があることで築堤と海とまちのつながりを分かりやすくアピールできるのではないか。また、水辺は好まれるため、演出などにおいても効果があると思う。(委員)
- 水を入れると水の管理で苦勞する。群杭をどう再現するのかにもよるが、一工夫いると思う。防護柵をどこに作るかや水の管理などの問題が出てくるため、よく考えた方が良い。(委員)
- 一乗谷の事例を見ると、高輪においてはガラスの設えは好ましくないと感じる。そうなる水を張るのが妥当だと思うが、水の管理が課題と感じる。水の管理を適切に行うことを前提に、ここは海岸線になるため、波が発生するようなギミックがあれば面白いのではないか。(委員)
- 水を張らずに群杭に直接触れられるというのも面白いのではないか。水を張るとオリジナルの遺構と誤解を招いたり水質の問題もあつたりするため、流水にすれば良いと思う。(委員)
- 水域については、全国的に維持管理が問題となっている。中途半端に本物に近づけると誤解を招くので、青いジェルやシリコンのようなもので海を表現して、海の上を歩いているかのような極端な表現とした方が良いのではないか。(オブザーバー)

- ガラス床でも水を張ることと変わらないくらい維持が大変であり、おすすめできない。デジタルマッピングのような新しい技術を使って、波の表現などをして遊んでいただくのが良いかもしれない。(オブザーバー)

【計画書への記載について】

- 2033年頃の整備になるため時間がある。意見が分かれているので、本日の委員会で結論を出すのではなく、大きな方向性として考え方を整理し、報告書に記述してもらいたい。(委員)
- 検討資料もどこかに残しておいた方が良く、報告書の附属資料とするか委員会の参考資料とするかは事務局と文化庁で相談して決めてほしい。(委員)

(3) 管理・運営に関する計画・経過観察について

【管理・運営に関する計画について】

- 100年先と言わず200年と考えてもらえればと思う。特に2028年度以降についてはJR東日本が主体となるようなスキームとなっているが、JR東日本だけが当事者になるのではなく、関係者にも指導・助言だけではなく当事者として関わっていただきたい。(委員)

← 文化財行政の皆様とも一緒に事業者の立場でやらせていただきたい。モニタリングのような専門性の高いものについては有識者の方に継続的に見ていただくことは必然であり、ご相談差し上げたい。関係の先生方、文化財行政の皆様にも是非フォローいただきたい。(オブザーバー)

- モニタリングや維持管理を行う組織ができるということか。(委員)

← これから検討していく。モニタリングの関係からも、どのような機器を設置するかやどのように情報を集めていくかも検討中である。(事務局)

- 高輪ゲートウェイシティ関係事業者にもJR東日本が入っており、JR東日本文化創造財団も入っている。それぞれ一定のミッションを持ってつくられた組織と理解しているが、真ん中にあるJR東日本の組織があまりにも大きい。JR東日本が主体でやるということはわかったが、社内のどの組織が管理していくのかも記載した方が良い。(委員)

- 窓口をはっきり決めていただくと行政としてもコンタクトを取りやすい。また、組織として継承していくなかで、施工当時の図面等の資料を誰が持っているのかを引き継いでもらえれば、修理の時に役に立つ。(オブザーバー)

← JR東日本グループも含め、しっかり管理していきたいと考えている。(オブザーバー)

← 社内の体制構築は時間もかかると思うが、しっかりやらせていただく。維持管理にはお金の話もあるので、マネタイズも含めて責任をもって行っていけるよう検討していく。(オブザーバー)

【経過観察について】

- 「経過観察」とあるが、「維持管理」のことではないのか。(委員)

← 計画書の項目に合わせたものである。(事務局)

5 第7章 事業計画

- 5・6街区についてはどうなるのか。(委員)

← 5・6街区については確認調査中であり、保存方針も今後の議論となっている。いずれにしてもこの地区でもしっかりと調査を行い、全体の理解を深め、品川開発プロジェクトの中で相応しいやり方で具体的な保存方針をやっていきたい。(オブザーバー)

→ 5、6 街区はこれからも課題があると思う。品川駅の方までプランがあるのだから、何もしないとの誤解を招かないように記載を工夫する必要があるのではないか。(委員)

6 ワーキンググループ検討状況について

- 作業は順調に進んでいるようであるので、引き続きお願いします。(委員)

【再現 WG について】

- 第 7 橋梁部については、高さについて矛盾を解消すべく検討してきたが、港区からのご説明のとおり、矛盾がないような計画になりそうと理解している。(委員)
- 親柱の再現については、高さ T.P.+2.5m程度を想定しており、これが建つとかなり目立つようになってしまうが、橋台は縁の下の力持ちのようなものであるのでこのまま進めていきたい。(委員)

【モニタリング WG について】

- 緻密に実験が進んでいること、新しい課題を逐次クリアしていることもあり、良い感じでモニタリングが実施できそうである。地下水位低下の問題があるが、3月頃には結論が出ると期待している。(委員)

7 区画道路 2 号の計画見直しについて

- 今後整備計画への位置づけなども必要なため、引き続き先生方、関係者の皆様のご理解、ご支援をお願いしたい。(事務局)
- ご説明のあったとおり、我々としても歩専道化を前提とした手続きおよび設計を進める。また交通量や安全対策の意見が出ているため、そちらについても連携して取り組んでいきたい。(オブザーバー)
- 区画道路 2 号の一部歩専道化は保存活用計画に基づくもので、まちづくりと築堤の保存の両立を図るということで、先ほど説明のあったとおりである。ただ 10 月 10 日の地権者説明に対し、計画変更への大きな反対はなかったものの、駐車場出入りの安全対策についての意見があったため、これに真摯に向き合い、地権者への丁寧な説明、対応は今後も尽くされていくべきと考える。(オブザーバー)
- 地権者に配慮し、関係者との間で確認書等を結んでまいりたいと思う。(関係者)
- 長らく協議をお願いしたところであるが、まとまる方向で動いたと理解した。委員会としては、4 者ご協力のもと地権者様への説明も含め、委員会として了承することで良いか。(委員)
- 異議なし。(一同)
- 関係する皆さんに努力いただいたので、私からも御礼申し上げます。(委員)
- 長らく懸念事項となっていたところ、ようやく良い報告ができたということで、ご尽力ありがとうございました。地権者さまとのご対応は泉岳寺地区再開発の施行者である東京都さまが窓口にはなと思うが、JR としても関係各所と連携して丁寧な対応を行っていきたいと考えているため、引き続きお願いしたい。(オブザーバー)

8 整備基本計画書のとりまとめについて

- 変更すべきところがあれば、早めに指摘する。(オブザーバー)
- 素案が手元に届く前に指摘事項があれば、直接事務局にお伝え願う。(委員)

要旨以上